

新名誉会員の紹介：前会長 數土文夫氏

數土 文夫 氏

(昭和16年3月生)

本学会前会長數土文夫氏に対し、名誉会員の資格を授与することになりましたので、ここにそのお祝いの意味を込め、その功績を記させていただきます。



同氏は、北海道大学工学部冶金工学科卒業後、川崎製鉄に入社され、製鉄所において長らく鉄鋼製造プロセスの開発に携わられました。特に、高炉でできた銑鉄（溶けた鉄）から不純物を除去し、用途に応じて成分を調整する鉄鋼製品の品質を決める最も重要な製造プロセスにおいて、底吹転炉というわが国初の設備を開発・実用化されました。これにより、品質に優れた多くの鉄鋼製品を効率的に製造することが可能となりました。さらに、省プロセス化、省資源化、環境対策でも革新的な技術、設備を他社に先駆けて開発・導入されてきました。これらの業績により、日本鉄鋼業が品質、生産性、環境対応で世界No.1の位置を占めることに大きく貢献されました。

また、多くの論文執筆と特許出願により学術面でも大きく貢献され、その功績を称えて、大河内記念技術賞、金属学会技術賞、鉄鋼協会製鉄功労賞など多くの社外表彰を受賞されています。

経営者となられてからは、川崎製鉄社長として、平成15年の川崎製鉄とNKKの経営統合によるJFEスチール設立を進め、JFEスチールの初代社長に就任されました。社長として生産設備・拠点の再編を推進され、鉄鋼事業経営の効率化を実現されました。これにより、鉄鋼業界でNo.1の売上高利益率を達成されました。また、経営統合を通して鉄鋼業界全体の競争力強化を達成し、業界の進歩・発展にも大きく貢献されました。

また、最近では企業経営者やリーダー向けの講演活動も活発になされ、国際競争の中で勝ち抜くために経営者がなすべきこと、リーダーシップのあり方などをご自分の経験を元に講演されています。経済同友会の副代表幹事としてもご活躍され、日本経済界の発展を牽引されています。

平成22年にOR学会会長に就任されました。会長

としての2年間、一般会員、賛助会員数の増加に努力され、会員の減少傾向に歯止めをかけられました。学会を活性化させるためには企業所属の一般会員を増やすことが重要であり、そのためには企業にとって魅力のある学会になる必要があると主張されてきました。平成23年の秋の研究発表会で行われた特別講演で、具体的なデータを示しながら、ORは実学であるべきであると強調されたことは記憶に新しいところです。

平成22年秋には中国OR学会30周年記念式典に来賓として出席され、日中OR学会交流にも貢献されました。中国OR学会の設立に深い関係がある日中文化交流協会でもご活躍されています。

また、OR学会の「公益社団法人」化を推進され、学会の社会的信用を高められた功績は非常に大きなものであります。公益法人化への移行に際しては、理事の方々と何度も議論を重ねて移行の方針を決定され、2012年3月から「公益社団法人」として新たなスタートを切ることができました。

日本OR学会が同氏のような日本を代表する企業経営者を会長として迎え、従来にない視点でご指導を賜り支えていただいたことは、大きな財産でありました。会長の2年間のご指導に対して感謝の念に堪えません。今後とも大所高所からご指導賜りたくお願いする次第です。

一略歴一

昭和39年	北海道大学工学部冶金工学科卒業
同年	川崎製鉄株式会社入社
平成6年	同社取締役 千葉製鉄所副所長
平成9年	同社常務取締役鉄鋼企画部長
平成12年	同社代表取締役副社長
平成13年	同社代表取締役社長
平成15年	JFEスチール株式会社 代表取締役社長 (CEO)
平成17年	JFEホールディングス株式会社 代表取締役社長 (CEO)
平成22年	同社相談役
平成19年～	経済同友会副代表幹事
平成23年	NHK経営委員長
平成24年～	東京電力株式会社社外取締役
OR学会関係	会長 平成22・23年度